

令和元年度企業版ふるさと納税活用事業

No.	事業	事業期間	分野	事業内容	寄附企業数 寄附額	重要業績評価指標 (KPI)	実績値(a) 目標値(b)	達成率 (a/b)	検証結果(案)
1	子ども食堂プロジェクト	R1～ R2年度	労働	子ども食堂を地域の力を結集して運営する「地域のキーステーション」と位置づけ、県内に800か所程度(子供が歩いていく距離とされる小学校区の数と同じ数)設置し、本県全域で取組を展開することで、社会インフラとしての子育て環境の充実を図る。 【主な取組】 ○養成講座や交流会を通じた「こどもの居場所づくりアドバイザー」の養成 ○アドバイザーの派遣による活動の立ち上げ支援 ○「こども応援ネットワーク埼玉」のポータルサイトの構築 ○子ども食堂フォーラムの開催や出前講座の実施等を通じた子供の貧困の問題についての啓発活動の実施	2社 20万円	子どもの居場所*の数 * 子供食堂、学習支援の場、プレーパーク等	388か所 [264か所]	147.0%	目標を上回っており、社会全体で子供を支える環境づくりが推進されている。
2	埼玉の川の再生 「川の国埼玉」を目指して	R1～ R2年度	観光	「川の国埼玉」を県内外に浸透させ、県内の水辺に人を集めるため、ラジオCMやYouTube動画によるPR事業を実施するとともに、民間企業のノウハウを活用し、多彩な水辺空間を創出する。 【主な取組】 ○ラジオCM制作・放送 ○PR動画等の配信 ○河川敷地の商業利用等を促進(水辺空間とことん活用プロジェクト) (その他) ○「川の国埼玉はつらつプロジェクト」による水辺空間の整備や新たな魅力スポットの創出	1社 10.08万円	県管理河川における川遊びスポットの夏期入込客数(7～8月)	23.2万人 [24.4万人]	95.1%	令和元年7月は雨の日が多く、日照時間がかなり少ない状況であり気温も平年よりも低かったことから、目標を下回った。県では「川の国埼玉はつらつプロジェクト」や「水辺空間とことん活用プロジェクト」により水辺空間の整備や新たな魅力スポットを創出する事業を展開している。これらと連携しながら、引き続き事業を推進していく。
3	埼玉の魚影豊かな川づくり 推進計画	H30～ R1年度	農林 水産	県内の河川に魚を呼び戻し、釣り関連産業の活性化や川に親しむ交流人口の増加を図るため、魚の放流や外来魚・カワウ駆除対策を行う。 【主な取組】 ○地元団体等による入間川・荒川等への魚の放流 ○NPO団体によるさいたま市等の水田での稚魚の育成、水路への放流 ○外来魚・カワウの駆除 ○彩湖等でのワカサギ生息数調査 (その他) ○新たな釣法であるアユのルアー釣り教室の開催 ○漁協組合員を対象としたバス駆除技術スキルアップ研修の実施	2社 20万円	遊漁券収入 遊漁者数	40,073千円 14,157人 [56,000千円] [19,700人]	71.6% 71.9%	令和元年東日本台風の大雨、大水により、漁場は大きな被害を受けた。特に山間部のワカサギ漁場では、濁水や土砂崩れにより湖水が濁り、シーズンである10～2月まで、ほぼ魚影が認められず、遊漁券収入・遊漁者数ともに、目標を下回った。一方、電話による照会など、釣り人の関心は例年よりも高い。埼玉の漁場は魚影が戻りつつあるとの認識が、釣り人に浸透してきた結果であり、引き続き事業を推進していく。
4	森林技術者の確保・育成計画	H30～ R1年度	農林 水産	林業への就業希望者を即戦力として養成する研修を実施し、森林の循環利用「伐って・使って、植えて、育てる」を推進する人材を育成する。 【主な取組】 ○森林技術者養成のための研修実施 ・森林・林業に関する座学研修 ・安全衛生教育 ・チェーンソー実技研修 ・森林整備・木材加工現場見学 (その他) ○林業事業者による企業説明会、就業相談会の実施 ○市町村との連携による研修生に向けた移住・定住情報の提供	1社 15万円	研修受講者のうち林業への就業者数	9人 [5人]	180.0%	目標を上回っており、森林の循環利用を推進する人材の育成が図られている。

令和元年度企業版ふるさと納税活用事業

No.	事業	事業期間	分野	事業内容	寄附企業数 寄附額	重要業績評価指標 (KPI)	実績値(a) 目標値(b)	達成率 (a/b)	検証結果(案)
5	米・麦・大豆の優良種子生産体制強化プロジェクト	H30～R1年度	農林水産	<p>主要農作物である米・麦・大豆種子の安定生産体制を確立するため、各種子産地の将来ビジョンや需要を踏まえた「種子産地強化計画」を策定する。</p> <p>【主な取組】 ○種子産地において新たな生産者確保のための数値目標や具体的な方策等を定めた「種子産地強化計画」を作成</p>	0社 0万円	<p>種子産地強化計画策定地区数(累計)</p> <p>10a当たりの大豆種子収穫量</p>	<p>7地区 [6地区]</p> <p>82.9kg [95.0kg]</p>	<p>116.7%</p> <p>87.3%</p>	大豆種子収穫量は生産地域のうちの一部が、降雨による播種の遅れ等により収穫皆無となった影響で、目標を下回った。しかし、種子産地強化計画は目標を上回る地区で策定され、種子安定生産のための体制づくりは進んでいる。
6	熊谷スポーツ文化公園ラグビーの聖地化プロジェクト 企業版ふるさと納税制度活用はH30年度で終了	H30年度	観光	<p>ラグビーワールドカップ2019™の開催に向け、熊谷スポーツ文化公園ラグビー場に大型映像装置を整備し、試合観戦環境の一層の向上を図ることで、ラグビーの聖地としてのブランド力を高める。</p> <p>【主な取組】 (その他) ○熊谷ラグビー場改修専用グラウンド整備 ○ケヤキ並木整備</p>	-	<p>熊谷スポーツ文化公園有料施設*利用人数</p> <p>*ラグビー場、陸上競技場、屋内運動施設、体育館、ソフトボール場、グラウンドゴルフ場</p>	<p>113.3万人 [101.0万人]</p>	112.2%	熊谷スポーツ文化公園利用人数は目標を上回っており、ラグビーの聖地としてのブランド力を向上することができた。